

# 令和2年度第1回釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事要旨

日時: 令和2年11月9日(月)午前10時～11時40分

場所: 釧路市役所防災庁舎5階災害対策本部室

## 1 開会

・「釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 設置要綱」第6条第2項の規定により、委員10名中7名出席につき、過半数の委員の出席があったため、当会議成立を確認(確認時には6名出席。1名は、遅れて出席)。

## 2 市長あいさつ(代理:総合政策部長)

## 3 議長副議長選任

## 4 議事 <以下、質疑応答【◎…議長 ○…委員 ●…オブザーバー ■…釧路市】>

### (1)総合戦略交付金対象事業の進捗管理について

・事務局より【資料1】「令和元年度地方創生推進交付金事業の概略とKPI」、【資料2】「令和2年度地方創生推進交付金事業の概略とKPI」をもとに説明

(質疑応答)

- 新型コロナウイルス感染症の影響で事業の中止や形を変えてやらざるを得なかったという説明があったが、資料2の令和2年度のKPIについて、変更する必要がないのか。
- 地方創生推進交付金事業に係るKPIについては、コロナの影響を受け、実態に即したKPIの数値について必要に応じて変更することを考えていきたい。

### (2)第1期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進状況等について

・事務局より【資料3】「KPI(重要業績評価指標)の状況」、【資料4】「基本目標ごとの施策及び具体的事業の進捗について」をもとに説明

(質疑応答)

- 旅行会社の長期滞在ツアーが増加したとの話があったが、釧路市とビジネス研究会と連動して、こちらから積極的に働きかけをしたのか、逆に旅行会社からこういうツアーを行いたいという話があったのか。
- こちらからの働きかけがきっかけとなり、それまでの長期滞在の実績を見ていただいて、企画が進んだと認識している。
- 今年状況についてはどうか。
- 今年度はスタートが少し遅れたが、大きな落ち込みになっていないと聞いている。
- ◎ 釧路市の長期滞在は全道一と非常に成果を上げているが、いまコロナ禍においてのリゾートオフィスなどビジネスにつながるような働きかけなどは行っているのか。
- 長期滞在という枠組みよりは、企業誘致やサテライトオフィスの誘致などの枠組みで行っていかうとしているところ。阿寒湖畔では、ワーケーションを対象とした施設整備などを民間のホテルで独自に実施している。市と

してもニーズは把握しており、今後、どのようなことができるのか検討している。

◎ どういう形で長期滞在とビジネスとが繋がっていくのかを考えるのが大事だと考えている。

### (3) 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進について

・事務局より【資料5】「釧路市の人口動態の状況について」、【資料6】「第2期総合戦略にかかる数値目標およびKPIについて」、【資料7】「第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像」をもとに説明

(質疑応答)

- 人口減は非常に大きな問題。人が減れば経済規模が縮小する。子どもを安全に生める環境づくりと合わせて、経済の縮小を最小限に抑えるため、中小企業対策としてk-Bizなどの事業でまちの経済の鎮静をやらげたり、新しい動きにつなげたりということに今後積極的、集中的にやっていただきたい。市役所のルーチンワークだけではなく、本来、まち・ひと・しごと創生のために特別に行う事業は、交付金事業として行ったものくらいだと感じている。
- 経済を活性化していく取り組みを現実にやっていくのが重要であるとのこと指摘と思う。昨年度、ご意見をいただきながら策定した第2期総合戦略の基本目標1と2において経済の活性化、雇用、人材をテーマとし、主要産業や観光、UIターンなど、さまざまな事業を位置付けている。こういった事業を進めていくことが重要であるので、事業の成果を踏まえながらしっかりやっていきたい。まちづくり基本構想が上位にあり、その重点戦略にも経済活性化を掲げており、庁内一体となり取り組んでいきたい。
- 資料5に釧路・苫小牧・帯広の人口と出生数の推移のグラフがあるが、出生数の差に若年層の人口の差がそのまま表れているという理解でいいのか。もし、そうだとすると、苫小牧や帯広はどういった産業で若年層の人口を吸収しているのか、わかれば教えてもらいたい。
- 直接の回答になるかはわからないが、国勢調査において5年間の人口の動きを比較すると15～19歳の年齢階級の人が20～24歳の年齢階級になるときにガクンと減る現象が釧路市だけではなく、苫小牧や帯広でも起きている。理由としては、就職等で中央に出て行って、帰ってきていない現状がある。ただ、このガクンと減った直後の世代が帯広市などでは戻りが多いという現状に着目したい。どのような産業によって帯広市でこういう傾向が表れているのか、分析はできてないが、傾向を学んでいきたい。
- 人口ビジョンの将来展望において、出生率を2040年には1.35から2.07になると記載がある。実際に2.07にするのは無理なところもあると思うが、対策を知りたい。また、社会減対策として釧路に帰ってきたいと思える企業を作らなくてはいけないと考えている。企業づくりの中で、毎年ではなくても新卒者を1人でも2人もやっていたり会社を作っていかなければ社会減に追いつかない。そういう企業づくりに対しても支援をいただきたい。成長戦略の中で社会減対策企業が増えると税収増につながり、若者や女性が働きやすい環境も整うので、そういう点も含めて、考えを聞きたい。
- 2.07は、国全体の人口ビジョンにおいて設定している、人口を維持していける「人口置換の水準」の数値であり、当市としてもその数値を設定している。確かに高い基準ではあるが、国と協調した目標設定である。出生率を高めていく取り組みとして、親になる世代にいてもらわないと出生数は増えない。親になる世代にいてもらうという点では、働く場の確保が大事と考えている。社人研の調査でも結婚している人の出生率は2に近い数値があることから、安心して結婚できる環境が大事。結婚するためには、やはりきちんと働ける環境づくりが大事であり、その環境づくりを基本構想や総合戦略に位置づけて取り組んでいるところ。新卒者を雇うことができるような企業への支援が必要だという意見は受け止め、そういう観点で市内の企業に稼いでもら

える取り組みを進めていかななくてはいけないと考えている。

- 4月に釧路に転勤になったが、夏の涼しさなど大変過ごしやすい街だと思っている。

大きな話になるが、コロナ禍において首都圏の脆弱性の高さがよく分かった。またサプライチェーンにおいて、中国へ依存しすぎていたということも問題として起きている。釧路市においても、同様の問題が起きている。そんな中、日本製紙釧路工場の撤退のニュースは非常に残念に思う。しかし、ひがし北海道の存在意義として、首都圏の脆弱性を見ると工場誘致等のチャンスがあると非常に強く思っている。エネルギーという点でも太陽光など自然エネルギーについてもチャンスになり得る。帯広や苫小牧の人口減が緩やかだということは、帯広・十勝は酪農・農業を中心に豊かなところであり、それに付随した建設業などの相乗効果による経済的な豊かさがあり、人が戻ってくるという傾向がある。苫小牧は、苫港開発などがあり、景気がいい地域である。人が集まるといのは、経済的な豊かさが一つの背景になっている。釧路に来る前は小樽にいたが、小樽も人口が急激に減り、港の活用の場もなく、厳しい状況で、事業所数の減少幅が大きい。事業所が減り、後継者が不足しているという状況で、金融機関としても危機的状況だと認識している。行政、商工会議所、金融機関が連携を深めて、新規創業を具体化できる仕組みづくりをすることも必要ではないか。釧路市は、一体となって企業誘致、創業支援、後継者問題に取り組んでいるということアピールすることで、新しいものが生まれてくるのではないかと。すぐに豊かな経済につなげようとしても、現状では難しい。コロナ禍においては観光も厳しい状況なので、草の根的に連携を深めることが大事ではないか。

他地域から釧路市に転勤してきた職員は、釧路の子育て支援策が充実していると言っている。保育園もほぼ希望通りに入所でき、共働きができる。子育てしやすい環境であるという職員が多い。こういうこともプラスになるのではないかと。

- 産業振興部の企業立地協議会では金融機関にも参加いただいている。子育て環境については、貴重な意見をいただき、ありがたい。担当部署にも伝えたい。

- 資料7を初めてみたが、日本製紙のニュースを聞いたせいか、基本目標を見ても言葉だけでどうなるのかと危機感を覚えた。基本構想策定の際も、帰ってきたいまちづくりをどう進めたいのかという話をたくさんしたが、目に見えたものがなかなかない。新卒の人に話を聞くと、お給料だけではないということにははっきりしている。帰ってきたいという条件が釧路にはそこまではないと感じているようだ。自分のライフスタイルをどう釧路で実現できるかという発信が大事ではないか。ただ戻ってきてもらうのにどうしたらいいか、企業に新卒を増やしてもらいたいというだけではなく、そういう部分の情報を釧路市として発信していくことが大事。

また、コンパクトシティにしていかななくてはいけないという部分では、人口が20万だったときと、10万人に向かうときとでは、人が生活していく面積がこのままでいいわけではないので、そのあたりの指標も大事になっていくのではないかと。

産業構造の部分でいうと、釧路らしさや釧路の食というのも大事で、それらを活用してバージョンアップしていくことが大事だと考えていたが、今回の日本製紙の問題はビックバンだと思った。1年後には人口が大きく減るとい衝撃が起きるのではないかと。こういう事態では、逆に釧路にこれまで全くなかったものを産業構造に取り入れるような路線変更もチャンスではないか。長期滞在の実績を基にITなのか、フリーでデザインをしている方なのか、そういう方が一緒に仕事ができるような環境を整えるなど、新しい取り組みも重要ではないか。また、中小企業では、自主廃業をしていく方が増えている。後継者として、やりたい方を探すという仕組みをつくり、支援していくということを大々的に伝えることも大事ではないか。「今までにない釧路」ということを考えていく必要があるのではないかと。

- さまざまな情報発信が重要というご指摘についてもしっかりと考えていく。コンパクトなまちということでは、立地適正化計画の中で8つの拠点を設けて集約して行って、歩いて生活できるまちづくりを目指しているので、そういう先を見据えて、都心部まちづくりなどと連携して進めていきたい。
- 釧路市における状況としての資料が出ているが、釧根としての釧路市のあり方、地方があつてこそその釧路市という歴史もあるので、釧路市のデータばかりではなく、釧根36万人の人口がある中で、港の利用など、釧路市がどう生かされているということがわかる資料も必要ではないか。三大産業が衰退する中で、帯広や苫小牧に抜かされてどうするというだけでなく、地域を守っていくために地域企業としても逃げしていくわけにもいかないので、生きていくための成長戦略としては、地方を含めて全体像で考えないと人口減少について話せないし、起業する人達の応援もできないと思うので、釧根を含めたデータもあれば明るい話もできるのではないか。帯広は行政出先機関や医療機関、三大基幹産業の有る釧路を追い越せと頑張ってきた歴史がある。まだまだ釧路や釧根には十勝や帯広には負けない資源が数多く眠っていると考えている。
- 釧路市のことに目が行きがちであるが、視点を広げて、事務局もしっかり勉強し、そういう資料も示してストーリーを作っていけるように努力したい。
- 大変重要な視点をいただいた。総合戦略については、全国の市町村がそれぞれの地域戦略として作成しているという枠組みでこのような形になっているが、釧路市自体が持っている港湾機能や高次医療機能など、さまざまな機能は釧路市だけで完結しているのではなく、釧根圏域もっと広くひがし北海道において重要な役割を持っているということは、広域の観点として重要な戦略として考えており、データも持っている。高速交通ネットワークがようやく釧路市にも波及したという中で、この地域でのさまざまな強みの効果をどう出していけるかということは、市町村をまたがっての流通などが重要であり、この会議からいただいた貴重な視点として今後もフィードバックしていきたい。
- 日本製紙には小学生のころから工場の写生をした思い出があり、ショックが隠し切れない。  
釧路の子育て支援がいいという意見があつたが、通勤族にとっては、子育てをしている人たちの生活の状況が見えないということが問題となっている。最近、通勤族の方の活動が増えたと感じている。そういう方の特徴は、まず子だくさんだということ。外で仕事はしづらいが、自分らしく何かをやりたいという方たちなので、とても活動的だ。単なる就職ではなく、何らかの活動が就労につながるということを彼女たちは考えている。釧路市のどの地域に住むと子育てしやすいのかということが、市のHPからは情報が得られにくい。せっかく自分たちが釧路に来たので、自分にとって住みやすく、外から来る人たちにとっても住みやすいまちにしたいと考えて、さまざまな情報発信をしている。その活動を行政や企業などつないで、彼女たちが動きやすいようなつながりを生み出すことを支援している。大きなビジョンではなく、細やかな戦略ではあるが、細やかな戦略を市につなげる役割が重要だと感じている。本当の意味で官民一体となって考える時期が、改めて基幹産業プラスそれにまつわる産業が衰退していくことが目に見えているので、全体をつなぐということが非常に重要だと考えている。
- いろいろな層の方からの貴重な情報を具体的にどのような施策につなげていけるのか検討していきたい。
- ◎ では振興局の地域創生部長が出席されているので、一言を。
- このコロナ禍において、コロナ発生前に策定した計画をどのように推進していくのかということは、悩ましい課題。道は、今年3月に令和6年度までの第2期北海道創生総合戦略を策定しているが、9月の道議会において、「コロナによって経済社会情勢が一変したことを踏まえ、道の総合計画や創生総合戦略を見直すべきではないか」という質問があり、これに対して知事は、「現在、政策評価を通してコロナの影響を踏まえた施策の

点検を全庁的に行っており、総合計画の見直しを含めて、中長期的な視点から本道の進むべき方向を検討する」という答弁をしている。創生総合戦略は総合計画の重点戦略計画と位置付けられており、本体の総合計画をもし見直すことになれば、総合戦略を見直す可能性も高いと考えている。経済社会情勢の変化に対応していくことは非常に大事なことである。鉧路市ではコロナに加え、日本製紙鉧路工場の話もあり、今後、さらに厳しい状況になることが想定されるのではないか。コロナの状況は、すぐに終わらないことから、ウィズコロナを前提にあらゆる施策を考えていく必要がある。この地域の中核である鉧路市の取組みは、振興局や周囲の町村が期待している部分も大きい。人口減少対策は広域で取り組むことも重要だと考えているので、振興局としても連携して取り組んでいきたい。

◎それではすべての議事が終了したので、進行を事務局にお返りする。

## 5 閉会

(了)